

第2回研究大会に向けて

谷口 光毅（幼保連携型認定こども園 済美こども園）

1. 奈良で開催するにあたって

このたび、「日本子ども若者学会 第2回研究大会」を奈良の地で開催できますことを、大会実行委員長として大変嬉しく思っております。



まず、本大会の開催にあたり、ご支援、ご協力をいただきましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。また、ご多用の中、本大会の趣旨にご賛同いただき、ご登壇、ご講演、そして日頃の研究や実践をご発表いただく皆様に、厚く御礼申し上げます。多様な立場の皆様がそれぞれの知見や経験を持ち寄ってくださることこそが、本大会を形づくる大きな力であると感じています。

本大会のテーマは、「乳幼児から若者へ紡ぐ育ちのバトン ― 保幼小連携から大学・企業との協働まで」です。子どもは、ある日突然「小学生」になるわけでも、突然「社会人」になるわけでもありません。乳幼児期から学童期、青年期、そして社会へと、一人ひとりの育ちは連続しています。一方で、子どもや若者を支える私たちは、保育、教育、福祉、行政、大学、企業など、それぞれ異なる場所や立場からその育ちに関わっています。だからこそ、それぞれの専門性を大切にしながらも、その境界を越えて互いの実践や考えに触れ、語り合うことに大きな意味があると考えています。

本大会 2 日目は、私自身が園長を務める幼保連携型認定こども園 済美こども園を会場とし

て開催いたします。



済美こども園が何より大切にしているのは、「笑顔の保育」です。子どもたちが毎日笑顔で過ごし、「今日もこども園に行きたい」と思えるよう、一人ひとりが安心して自分らしく過ごせる温かな環境づくりを大切にしています。また、こども園は子どもだけが育つ場所ではありません。子どもの成長をともしに見守る中で、保育者も保護者も共に学び、育っていく。「子どものために、大人が何をできるのか」とともに考え、子どもも大人も育ち合える場所を目指しています。

そして、済美こども園の大きな特徴が、小学校と隣接し、園庭と校庭がつながっていることです。乳幼児期の生活の場と、その先にある小学校が文字どおり地続きになっています。保幼小連携を豊かなものにするためには、行事などの特別な交流だけでなく、日常の中で互いの存在を感じ、自然な交流を積み重ねていくことも大切です。園庭から小学生の姿が見え、小学生にとっても園児が身近な存在である。こうした日常の積み重ねによって、小学校が「突然始まる新しい世界」ではなく、これまでの生活の先にある身近な場所になっていきます。制度と制度をつなぐだけではなく、子どもの生活と育ちそのものをつないでいく接続を目指しています。

また、子どもの育ちは園と学校だけで完結するものではありません。済美こども園では、「ならまち探検」や野菜づくりなどを通して、地域の方々にも継続的に関わっていただいています。地域の人と出会い、一緒に活動する経験から、「自分の住んでいる場所が好き」「この地域の人たちが好き」という地域への愛着につながる教育を目指しています。

園を地域にひらくことも、その一環です。2026年9月27日には、地域の子どもたちと楽しむ無料イベント「済美こども園 キッズフェス」を開催予定です。スーパーマラドーナさん、ウクレレ奏者の鈴木智貴さん、ゲリィガガさんなどにもご協力いただき、園児だけでなく地域の子どもや大人が集い、楽しみ、つながる場をつくります。イベントそのものを目的とするのではなく、子どもをきっかけに人と人が出会い、新たなつながりが生まれる、「地域とともにあるこども園」でありたいと考えています。

**地域のこどもたちと楽しむ
済美こども園 キッズフェス**

参加費 無料

開催日 2026年 **9月27日** (日)

時間 9:00～13:00
※雨天決行、駐車場はありません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

場所 済美こども園
開放場所 園庭、1階保育室、2階リズム室

対象 対象おおむね3歳～小学6年生の子ども向けのイベントですがどなたでも参加可能です。

～2階リズム室について～
・子ども優先とさせていただきます。
・記録・広報用として動画撮影を行います。動画を使用する際は、お顔が分からないようモザイク処理を行いますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

持ち物 室内用上履き、室内へ入られる際に靴を入れていただくためのビニール袋等をご持参ください。
必要に応じて虫よけ対策、水分補給用のお飲み物をご持参ください。

鈴木 智貴
10:00

スーパーマラドーナ
11:00

ボランティアスタッフ
MC ビンゴ大会
ゲリィガガ

飲食屋台コーナー
9:00～13:00

さらに園庭には、桜や梅、どんぐりの木々、大きなビオトープがあり、四季の自然が子どもたちの毎日の生活のすぐそばにあります。自然に

触れ、発見し、不思議に思い、「なぜだろう」「やってみよう」と感じる経験も、子どもたちの豊かな育ちにつながっています。

このように、人、学校、地域、自然とのつながりを大切にしている済美こども園で、研究者、学生、保育・教育・福祉の実践者、行政関係者、企業の皆様が一堂に会することには、本大会ならではの意味があると感じています。

制度や組織を「接続」するだけではなく、そこに関わる人と人がつながること。そして、それぞれの現場で見えている子どもや若者の姿を持ち寄り、「次の育ちへ、私たちは何をつないでいくのか」をともに考えること。その対話の中から、新たな連携や実践が生まれることを願っています。

奈良は、1300年以上にわたり、人から人へ文化や知恵を受け継ぎながら、新しい時代を築いてきた地でもあります。この奈良の地で、乳幼児から若者、そして社会へと続く「育ちのバトン」について、皆様とともに考え、語り合えることを大変楽しみにしております。

本大会で生まれる一つひとつの出会いや対話が、それぞれの研究や実践の場へ持ち帰られ、さらに新しい誰かへとつながっていく。そのような大会となることを願っています。

最後になりましたが、本大会の開催に向けてお力添えをいただいておりますすべての皆様に、改めて心より御礼申し上げます。

奈良の地で、皆様とお会いできますことを心より楽しみにしております。